

東海北陸厚生局長 殿

国立大学法人  
三重大学医学部附属病院長  
竹 田

国立大学法人三重大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成21年度の業務に関して報告します。

記

- 1. 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2. 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3. 高度の医療に関する研修の実績 

研修医の人数	60人
--------	-----

 (注)前年度の研修医の実績を記入すること
- 4. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 6. 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7. 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	188人	148.0人	319.5人	看 護 補 助 者	64.0人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0.0人
歯 科 医 師	8人	9.0人	17.0人	理 学 療 法 士	6.0人	臨 床 検 査 技 師	48.0人
薬 剤 師	22人	19.0人	40.8人	作 業 療 法 士	2.0人	衛 生 検 査 技 師	1.0人
保 健 師	0人	0.0人	0.0人	視 能 訓 練 士	3.0人	そ の 他	2.0人
助 産 師	18人	2.0人	18.6人	義 肢 装 具 士	0.0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0.0人
看 護 師	352人	103.0人	417.1人	臨 床 工 学 士	16.0人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	4.0人
准 看 護 師	3人	9.0人	8.1人	栄 養 士	0.0人	そ の 他 の 技 術 員	23.0人
歯 科 衛 生 士	0人	5.0人	4.1人	歯 科 技 工 士	2.0人	事 務 職 員	174.0人
管 理 栄 養 士	5人	4.0人	8.1人	診 療 放 射 線 技 師	31.0人	そ の 他 の 職 員	32.0人

- (注) 1. 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2. 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3. 「合計」の欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計数を記入すること。

8. 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たりの平均入院患者数	493.3人	10.7人	504.0人
1日当たりの平均外来患者数	1,023.1人	90.1人	1,113.2人
1日当たりの平均調剤数			544.0剤

- (注) 1. 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2. 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3. 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4. 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱い患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インプラント義歯	24人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	2人
骨髄細胞移植による血管新生療法	0人
Real Time PCR法を用いたEBウイルス感染症の迅速診断	0人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	0人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	3人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示  
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱い患者数

先進医療の種類	取扱患者数
早期胃癌に対する腹腔鏡下センチネルリンパ検索	12人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	120人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	31人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	27人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	9人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1)「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	副腎腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 ラジオ波通電用手電極をCT画像ガイド下にて経皮的に腫瘍に穿刺し、腫瘍に対してラジオ波発生装置による凝固療法			
医療技術名	舌下免疫療法	取扱患者数	32人
当該医療技術の概要 スギ花粉症の原因であるスギ花粉のエキスを食パンのかけらにたらし、舌の下に2～3分程度含むことにより、エキスを継続的に体内に入れて体を慣らし、アレルギー			
医療技術名	PMC療法	取扱患者数	36人
当該医療技術の概要 大腸癌に用いられる代表的な抗癌剤である5-FUの週1回の持続静注にあわせ、UFTを投与することにより血中低濃度5-FUを長時間持続させ、さらに週1回、UFTと5-FUの持続投与を同時併用し、24時間高濃度5-FU			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	57人	・膿疱性乾癬	9人
・多発性硬化症	45人	・広範脊柱管狭窄症	2人
・重症筋無力症	120人	・原発性胆汁性肝硬変	95人
・全身性エリテマトーデス	439人	・重症急性膵炎	4人
・スモン	4人	・特発性大腿骨頭壊死症	1人
・再生不良性貧血	57人	・混合性結合組織病	24人
・サルコイドーシス	83人	・原発性免疫不全症候群	3人
・筋萎縮性側索硬化症	46人	・特発性間質性肺炎	16人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	260人	・網膜色素変性症	41人
・特発性血小板減少性紫斑病	91人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	15人	・肺動脈性肺高血圧症	10人
・潰瘍性大腸炎	209人	・神経線維腫症	14人
・大動脈炎症候群	21人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	0人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	34人
・天疱瘡	53人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	0人
・脊髄小脳変性症	58人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	0人
・クローン病	74人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	7人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2人
・悪性関節リウマチ	8人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患	259人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	19人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	8人
・後縦靭帯骨化症	62人	・肥大型心筋症	20人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	30人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	2人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	36人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症	3人	・黄色靭帯骨化症	1人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	5人	・間脳下垂体機能障害	0人
(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。		合計	2348人

(様式第10)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ 腹腔鏡下小切開副腎摘出術	・
・ 腹腔鏡下小切開腎部分切除術	・
・ 腹腔鏡下小切開腎摘出術	・
・ 腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術	・
・ 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・
・ 痔核手術(脱肛を含む)(PPH)	・
・ う蝕菌無痛的窩洞形成加算	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には業務報告を行う3年前の4月以降に健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供したものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の 状況	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。
	<input type="checkbox"/> 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査 部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に 1回程度(3種類の検討会) 1カ月に 2回程度(1種類の検討会) 1カ月に 1回程度(2種類の検討会)
剖 検 の 状 況	剖検症例数            23 例    剖検率                    7.1 %

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	機械的脳塞栓・血栓除去用機材の開発と手技の確定に関する研究	朝倉 文夫	医学部附属病院	500 円	補委 科学研究費補助金
2	腎特異的酸化ストレスによる尿細管薬物トランスポータの発現・機能変動とその役割	奥田 真弘	医学部附属病院	500 円	補委 科学研究費補助金
3	スギ花粉アレルギーに対する抗原特異的抑制性T細胞の誘導の検討	山中 恵一	医学部附属病院	900 円	補委 科学研究費補助金
4	肉腫肺転移に対する、デコリンを用いた画期的な治療戦略の確立	松峯 昭彦	医学部附属病院	700 円	補委 科学研究費補助金
5	遺伝子改変マウスを用いた慢性閉塞性肺疾患発症機序の解明と新治療法の開発	田口 修	医学部附属病院	1,500 円	補委 科学研究費補助金
6	肝疾患特異ペプチドの糖鎖プロファイリングによる病態標的分子の探索	杉本 和史	医学部附属病院	1,500 円	補委 科学研究費補助金
7	ヒトリンパ球分化機構の解明と移植療法への応用	大石 晃嗣	医学部附属病院	1,200 円	補委 科学研究費補助金
8	実験的肺高血圧の発症におけるIL6-Th17/Treg系の役割	三谷 義英	医学部附属病院	1,400 円	補委 科学研究費補助金
9	統合失調症における感覚情報処理異常の解明—ミスマッチ反応を用いて	元村 英史	医学部附属病院	1,600 円	補委 科学研究費補助金
10	拡散テンソル画像を用いた非定型精神病における視床下部へのフィードバック障害の解析	城山 隆	医学部附属病院	700 円	補委 科学研究費補助金
11	大腸癌肺転移に対する経皮的ラジオ波凝固療法と肺切除の無作為化臨床比較試験	山門 亨一郎	医学部附属病院	1,200 円	補委 科学研究費補助金
12	化学放射線療法後の直腸癌遠隔転移誘導メカニズムの解明	井上 靖浩	医学部附属病院	2,800 円	補委 科学研究費補助金
13	糖尿病合併妊娠における酸化ストレス・アポトーシスによる先天奇形発生機序の解明	杉山 隆	医学部附属病院	1,300 円	補委 科学研究費補助金
14	脂肪肝からの肝移植は可能となるか—虚血再還流障害から移植まで動物モデルを使って—	岸和田 昌之	医学部附属病院	960 円	補委 科学研究費補助金
15	大腸癌患者における糞便・末梢血からのあらたな発癌・予後マーカーの確立	奥川 喜永	医学部附属病院	1,470 円	補委 科学研究費補助金
16	二光子レーザー顕微鏡を用いた壊死性腸炎モデルの作成とその病態・治療法の解明	小池 勇樹	医学部附属病院	980 円	補委 科学研究費補助金
17	神経成長因子による腰痛発症の解明とその制御による治療法の開発	浅沼 由美子	医学部附属病院	600 円	補委 科学研究費補助金
18	外傷性嗅覚障害に対する嗅覚再生治療のための基礎研究	小林 正佳	医学部附属病院	300 円	補委 科学研究費補助金
19	拡張期心不全患者における運動耐用能と運動時拡張能の検討	田辺 正樹	医学部附属病院	500 円	補委 科学研究費補助金
20	高齢うつ病の病態生理の解明 (EEG/ERP) の双極子解析とMRIによる統括的研究	松本 卓也	医学部附属病院	500 円	補委 科学研究費補助金
21	心筋虚血再灌流障害の発生機序の研究—TLR4のシグナル細胞内伝達経路の解明—	庄村 心	医学部附属病院	500 円	補委 科学研究費補助金
22	プロアテーゼ活性化受容体を標的とした椎間板変性に対する治療法の開発	明田 浩司	医学部附属病院	1,100 円	補委 科学研究費補助金
23	凝固活性抑制下における癌転移関連蛋白の解析および転移抑制能の評価	浅沼 邦洋	医学部附属病院	1,100 円	補委 科学研究費補助金
24	血中腫瘍由来ペプチドの網羅的解析による新規バイオマーカーの探索	山本 憲彦	医学部附属病院	1,400 円	補委 科学研究費補助金
25	肺高血圧における神経由来細胞の関与とエンドセリン受容体拮抗薬の新しい作用機序	大橋 啓之	医学部附属病院	2,000 円	補委 科学研究費補助金
26	トラスツマブ投与患者における細胞性免疫応答の誘導と抗腫瘍効果における役割の検討	齋藤 佳菜子	医学部附属病院	2,100 円	補委 科学研究費補助金
27	肝移植医療における脂肪肝由来小グラフトの限界と挑戦	水野 修吾	医学部附属病院	1,000 円	補委 科学研究費補助金
28	クローン病術後感染制御における術後早期白血球除去療法の有用性	吉山 繁幸	医学部附属病院	2,600 円	補委 科学研究費補助金
29	晩産化が母児へ与える影響—酸化ストレスによるエピジェネティクス制御の視点から	梅川 孝	医学部附属病院	2,100 円	補委 科学研究費補助金
30	DIF・PDE1シグナルによるヒト悪性黒色腫に対するsiRNA療法	清水 香澄	医学部附属病院	1,800 円	補委 科学研究費補助金
31	多価性がんワクチン	珠玖 洋	大学院医学系研究科	21,100 円	補委 科学研究費補助金
32	細菌ベクターを用いた新規がんワクチン療法の開発	西川 博嘉	大学院医学系研究科	2,700 円	補委 科学研究費補助金
33	ヒト認知機能を障害させる遺伝子異常を持つモデル動物の作出とその病態解析	岡田 元宏	大学院医学系研究科	3,700 円	補委 科学研究費補助金
34	強心作用に関する新しい分子機序の解明、病態との関連解析と新しい治療法への応用	伊藤 正明	大学院医学系研究科	2,500 円	補委 科学研究費補助金

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
35	悪性腫瘍における治療選択検査と分子標的治療の開発:プリン代謝酵素欠損モデル	登勉	大学院医学系研究科	3,600円	科学研究費補助金
36	パーキンソン病における酸化ストレス誘導神経細胞死の新規解明と予防法の確立	及川伸二	大学院医学系研究科	4,700円	科学研究費補助金
37	口腔悪性腫瘍に対するPDE2関連シグナル・遺伝子治療	田川俊郎	大学院医学系研究科	5,400円	科学研究費補助金
38	2光子励起顕微鏡を用いた大腸癌化及び癌、周囲間質応答の新規確証提示	楠正人	大学院医学系研究科	6,200円	科学研究費補助金
39	生理活性を有する脳血管内治療用デバイスの開発研究	滝和郎	大学院医学系研究科	5,500円	科学研究費補助金
40	成人胎児期起源仮説の実験的検証とその臨床応用に関する総合的研究	佐川典正	大学院医学系研究科	8,000円	科学研究費補助金
41	比較定量ペプチドミクスによる肝疾患病態責任分子の解析と新規バイオマーカーの探索	白木克哉	大学院医学系研究科	1,000円	科学研究費補助金
42	紀伊半島のALSとパーキンソン病複合におけるSNPs解析による発病因子の検討	小久保康昌	大学院医学系研究科	1,000円	科学研究費補助金
43	マウス慢性脳低灌流モデルに対するヒト胚性幹細胞由来血管前駆細胞移植	富本秀和	大学院医学系研究科	600円	科学研究費補助金
44	造血幹細胞由来細胞から肝星細胞への分化機序の解明:新規肝線維症治療法を目指して	榎屋正浩	大学院医学系研究科	900円	科学研究費補助金
45	遺伝子多型からみた生体肝移植におけるテラーメド治療	白井正信	大学院医学系研究科	600円	科学研究費補助金
46	脳動脈瘤破裂リスクを予測するための4次元CT血管造影法の開発	松島聡	大学院医学系研究科	700円	科学研究費補助金
47	血栓症における過凝固症の早期診断ならびに発症機構の解明	和田英夫	大学院医学系研究科	2,300円	科学研究費補助金
48	ヒト疾患に近いシステムを用いた白血病発症におけるBCR-ABL1遺伝子の機能解析	片山直之	大学院医学系研究科	1,500円	科学研究費補助金
49	ポリオウイルスを用いた神経芽腫の新しい治療法の研究	豊田秀実	大学院医学系研究科	2,100円	科学研究費補助金
50	表皮を免疫調整臓器とする新規アレルギー疾患治療の開発	水谷仁	大学院医学系研究科	2,200円	科学研究費補助金
51	疾患の異種性に着目したパニック障害の病態研究	谷井久志	大学院医学系研究科	1,300円	科学研究費補助金
52	難治性癌に対するGITRL-Fc融合蛋白発現腫瘍による新規腫瘍細胞ワクチンの開発	池田裕明	大学院医学系研究科	2,000円	科学研究費補助金
53	宿主・腫瘍相乗的サイトカイン産生連鎖機構の制御による癌悪液質の回避	三木誓雄	大学院医学系研究科	2,700円	科学研究費補助金
54	過少グラフトを用いた生体部分肝移植への挑戦と克服	伊佐地秀司	大学院医学系研究科	1,100円	科学研究費補助金
55	肺虚血再灌流障害の発症機序-TLR4を介した細胞内シグナル伝達経路の解明	島本亮	大学院医学系研究科	1,900円	科学研究費補助金
56	肺高血圧症における凝固・炎症カスケード解析による治療標的の解明	丸山一男	大学院医学系研究科	1,600円	科学研究費補助金
57	癌間質による前立腺癌幹細胞ニッチ形成機構の解明:癌間質標的療法へ向けた基礎的研究	有馬公伸	大学院医学系研究科	1,500円	科学研究費補助金
58	頭頸部腫瘍における蛋白ワクチンによる腫瘍破壊の免疫モニタリング	影山慎一	大学院医学系研究科	1,900円	科学研究費補助金
59	血中ホモシステイン測定によるロイコボリン投与スケジュールの個別化に関する研究	登勉	大学院医学系研究科	1,600円	科学研究費補助金
60	呼吸中枢末熟ラットにおける吸気炭酸ガス反応性の検討-乳幼児突然死症候群との関連	成田正明	大学院医学系研究科	1,300円	科学研究費補助金
61	未破裂脳動脈瘤に対するテラーメドステント治療法の開発	滝和郎	大学院医学系研究科	900円	科学研究費補助金
62	ES細胞分化でのphosphodiesteraseの役割	田川俊郎	大学院医学系研究科	1,300円	科学研究費補助金
63	中枢神経系機能性疾患発症前治療介入の有効性検証	岡田元宏	大学院医学系研究科	1,600円	科学研究費補助金
64	孤束核神経回路発達期におけるアストロサイトの役割	太城康良	大学院医学系研究科	800円	科学研究費補助金
65	癌間質、血清蛋白プロファイリングから検証した癌転移形成能誘導因子の同定と臨床応用	問山裕二	大学院医学系研究科	2,400円	科学研究費補助金
66	臍帯血を用いる造血幹細胞移植技術の高度化と安全性確保に関する研究	東英一	医学部附属病院	900円	科学研究費補助金
67	医療安全に係るコミュニケーションスキルに関する研究-患者ハラスメントに焦点をあてて-	兼児敏浩	医学部附属病院	2,000円	科学研究費補助金
68	医療安全推進に必須の組織文化(安全文化)の測定および簡便な有害事象把握手法の開発と活用	兼児敏浩	医学部附属病院	500円	科学研究費補助金
69	労働者のメンタルヘルス不調の予防と早期支援・介入のあり方に関する研究	竹村洋典	医学部附属病院	600円	科学研究費補助金
70	小児がんに対する標準治療・診断確立のための研究	出口隆生	医学部附属病院	1,000円	科学研究費補助金
71	高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	松峯昭彦	医学部附属病院	450円	科学研究費補助金



No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
72	腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	山門亨一郎	医学部附属病院	650円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
73	NK細胞腫瘍に対する東アジア多国間治療研究	山口素子	医学部附属病院	500円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
74	分子基盤に基づく難治性リンパ系腫瘍の診断及び治療法の開発に関する研究	山口素子	医学部附属病院	1,200円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
75	リンパ系腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	山口素子	医学部附属病院	1,200円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
76	複合がんワクチンの戦略的開発研究	珠玖洋	大学院医学系研究科	107,200円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
77	化学物質の胎内ばく露による情動・認知行動に対する影響の評価方法に関する研究	成田正明	大学院医学系研究科	26,000円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
78	先端的循環器系治療機器の開発と臨床応用、製品化に関する横断的・統合的研究	滝和郎	大学院医学系研究科	21,000円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
79	卒妻病の実態の把握と治療指針作成に関する調査研究	小久保康昌	大学院医学系研究科	15,000円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
80	肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症の院内発症予防ガイドライン公開後の評価ならびに改定と普及・推進に関する研究	中野 勉	大学院医学系研究科	7,000円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
81	膝痛・腰痛・骨折に関する高齢者介護予防のための地域代表性を有する大規模住民コホート追跡研究	須藤 啓広	大学院医学系研究科	4,500円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
82	転移性骨腫瘍に対する機能的患肢温存療法の開発	内田 淳正	大学院医学系研究科	3,000円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
83	重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究	成田 有吾	大学院医学系研究科	3,000円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
84	リアルタイムモニター花粉数の情報のあり方の研究と舌下ペプチド・アジュバンド療法の臨床研究	湯田 厚司	大学院医学系研究科	2,000円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
85	血液凝固異常症に関する調査研究班	和田 英夫	大学院医学系研究科	1,500円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
86	抗腫瘍抗原ペプチド免疫療法の改良に向けた研究	影山 慎一	大学院医学系研究科	1,400円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
87	遺伝性脳小血管病の病態機序の解明と治療法の開発	富本 秀和	大学院医学系研究科	1,200円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
88	神経変性疾患に関する調査研究	小久保 康昌	大学院医学系研究科	1,000円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
89	卒妻病の実態の把握と治療指針作成に関する調査研究	富本 秀和	大学院医学系研究科	1,000円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
90	サルを用いたアルツハイマー病及び血管性認知症に対するワクチン療法の有効性、安全性の評価	富本 秀和	大学院医学系研究科	700円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
91	労働者のメンタルヘルス不調の予防と早期支援介入のあり方に関する研究	岡田 元宏	大学院医学系研究科	600円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
92	思春期精神病理の疫学と精神疾患の早期介入方策に関する研究	谷井 久志	大学院医学系研究科	500円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
93	神経変性疾患に関する調査研究	小久保 康昌	大学院医学系研究科	200円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
94	早期前立腺がんにおける根治的術後の再発に対する標準的治療法の確立に関する研究	杉村 芳樹	大学院医学系研究科	200円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
95	医療安全に係るコミュニケーションスキルに関する研究～患者ハラスメントに焦点をあてて～	兼児 敏浩	医学部附属病院	2,000円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
96	高感受性悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究	山口 素子	医学部附属病院	1,200円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
97	分子基盤に基づく難治性リンパ系腫瘍の診断及び治療法の開発に関する研究	山口 素子	医学部附属病院	1,200円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
98	小児がんに対する標準治療・診断確立のための研究	出口 隆生	医学部附属病院	1,000円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
99	臍帯血を用いる造血幹細胞移植技術の高度化と安全性確保に関する研究	東 英一	医学部附属病院	900円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
100	腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	山門 亨一郎	医学部附属病院	650円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
101	労働者のメンタルヘルス不調の予防と早期支援介入のあり方に関する研究	竹村 洋典	医学部附属病院	600円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
102	NK細胞腫瘍に対する東アジア多国間治療研究	山口 素子	医学部附属病院	500円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
103	医療安全推進に必須の組織文化(安全文化)の測定および簡便な有害事象把握手法の開発と活用	兼児 敏浩	医学部附属病院	500円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金
104	高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	松峯 昭彦	医学部附属病院	450円	<input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金

- (注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。  
3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合には「委」に「レ」をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題 命	発表者氏名	所属部門
1	Neurol Med Chir(Tokyo)49(9):386- 93, 2009	Cerebral ischemic lesions detected with diffusion-weighted magnetic resonance imaging after carotid artery stenting: Comparison of several antiembolic protection devices.	taha MM	脳神経外科
2	Nippon Geka Gakkai Zasshi110(6):353- 6, 2009	Procedure performance standards of CAS in Japan	Asakura F	脳神経外科
3	Geriatric Neurosurgery 21:45-49, 2009	コイル塞栓術を第一選択とした80歳以上の高 齢者くも膜下出血の治療	種村浩	脳神経外科
4	Neurol Res32(2):179- 84, 2010	Tenascin-C is induced in cerebral vasospasm after subarachnoid hemorrhage in rats and humans: a pilot study.	Suzuki H	脳神経外科
5	Eur J Emerg Med17(1):42-4, 2010	Complete recovery from aneurysm subarachnoid hemorrhage associated with out-of-hospital cardiopulmonary arrest.	Suzuki H	脳神経外科
6	脳神経外 科. 37(11):1067- 1083, 2009	rt-PA静注療法の現状と展望	阪井田博司	先進的脳血管治療 学
7	日本放射線技術学会雑誌	骨シンチグラフィ用放射性医薬品投与後の患 者から放出されるγ線CRマンモグラフィの画 質に及ぼす影響の検討	上桐 章	中央放射線部
8	耳鼻咽喉科免疫アレルギー (21年12月)	当科におけるスギ花粉症に対する舌下免疫療 法の現状と2年間の治療成績	湯田厚司	耳鼻咽喉・頭頸部 外科
9	東海花粉症 (22年3月)	スギ花粉症に対する皮下および舌下免疫療法 の現状と課題	湯田厚司	耳鼻咽喉・頭頸部 外科
10	Chemical Senses Advance Access published on July 3, 2009	Olfactory Nerve Recovery Following Mild and Severe Injury and the Efficacy of Dexamethasone Treatment	Masayoshi Kobayashi	耳鼻咽喉・頭頸部 外科
11	Cardiovascular & Hematological Agents in Medical Chemistry 7206-11(2009)	Phosphodiesterase 3 (PDE3): Structure, Lokalization and Function.	T. Murata	歯科口腔外科
12	Anticancer Res 29 1119-1122(2009)	Characterization of Phosphodiesterase 1 in Human Malignant Melanoma Cell Line.	K. Shimizu	歯科口腔外科
13	Eur Heart J 30: 2440, 2009 Aug 17	Acute Myocardial Infarction and Cardiogenic Shock Caused by a Mobile Thrombus in the Ascending Aorta Unassociated with Atherosclerosis	Shiro Nakamori	循環器内科
14	Heart 95: 395-398, 2009 Mar	Serum Intact Parathyroid Hormone Levels Predict Hospitalization for Heart Failure	Tadafumi Sugimoto	循環器内科
15	J Clin Microbiol 47: 2340-2343, 2009 May	Mycotic Aortic Aneurysm Associated with Legionella Anisa	Masaki Tanabe	医療安全・ 感染管理部
16	Circ J 73: 1513-1517, 2009 Aug	Incidence and Clinical Predictors of Deep Vein Thrombosis in Patients Hospitalized With Heart Failure in Japan	Satoshi Ota	循環器内科
17	三重医学 (22年3月)	本院における小児在宅支援の現状と課題	鈴木志保子	医療福祉支援セン ター

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
18	J Am Soc Echocardiogr 22: 1353-1359, 2009 Dec	Reversible Right Ventricular Regional Non-Uniformity Quantified by Speckle- Tracking Strain Imaging in Patients with Acute Pulmonary Thromboembolism	Emiyo Sugiura	循環器内科
19	Clin Exp Nephrol 13: 325-331, 2009	Ultrasonography as a Predictor of Overt Bleeding after Renal Biopsy	Eiji Ishikawa	腎臓内科
20	Clin Exp Nephrol 13: 594-597, 2009 Jul	How Long is Strict Bed Rest Necessary after Renal Biopsy?	Eiji Ishikawa	腎臓内科
21	J Arrhythmia 25: 130- 134, 2009 Oct	The Utility of Transtelephonic Electrocardiograms for Detecting Arrhythmia Recurrences after Radiofrequency Catheter Ablation for Atrial Fibrillation	Michiharu Senga	循環器内科
22	Int J Cardiol e47-e50, 2010 Feb	Biventricular Pacing Worsened Dyssynchrony in Heart Failure Patient with Right-bundle Branch Block	Masaki Tanabe	医療安全・ 感染管理部
23	Angiology 61: 269- 274, 2010 2009 Jul Epub	Risk Factors for Nonfatal Pulmonary Embolism in a Japanese Population: A Hospital-Based Case-Control Study	Norikazu Yamada	循環器内科
24	Intern Med 49: 509, 2010 Mar	Unique Endoscopic Images in a Patient with Henoch-Schönlein Purpura	Satoko Kusagawa	消化器内科
25	J Cardiol 55: 322-327, 2010 Jan	Efficacy of Linear Block at the Left Atrial Roof in Atrial Fibrillation	Michiharu Senga	循環器内科
26	J Arrhythmia 26: 38- 43, 2010 Jan	Catheter Ablation of a Complex Atrial Tachycardia after Surgical Repair of Tetralogy of Fallot Guided by Combined Noncontact and Contact Mapping	Eitaro Fujii	循環器内科
27	Oncol Lett 1: 427-430, 2010 May	Development of Hepatocellular Carcinoma in Patients with Chronic Hepatitis C More than 10 Years after Sustained Virological Response to Interferon Therapy	Keiichiro Nojiri	消化器内科
28	Biol Pharm Bull. 32 750-754(2009) 2009年4 月	The impact of total bilirubin on plasma micafungin levels in Living-donor liver transrecipients with sever liver dysfunction	Yuichi Muraki	薬剤部
29	Current Women's Health Reviews 5(4) 220-224 2209	Management of Obesity in Pregnancy	Takashi Sugiyama	産科婦人科
30	Reproduction, fertility, and development 21 840-847 2009	Factor XII gene expression in endometrial stromal cells during decidualisation.	Tsutomu Tabata	産科婦人科
31	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 35(6) 1121-1124 2009	A Case or Fulminant Typel Diabetes Mellitus Associated with Pregnancy	Nao Murabayashi	産科婦人科
32	Oncol Rep 2009年11月	Three-dimensional alginate spheroid culture system of murine osteosarcoma	明田浩司	スポーツ整形外科
33	膝 2009年4月	変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術後 に骨盤部脆弱性骨折を起こした1例	西村明展	スポーツ整形外科

No.	雑誌名	題 命	発表者氏名	所属部門
34	中部日本整形外科災害科学会雑誌 2009年7月	腓骨筋腱脱臼に対するDu Vries法の治療経験	西村明展	スポーツ整形外科
35	Int J Dermatol. 2009 Dev;48(12):1330-3.	Leg ulcer caused by Mycobacterium ulcerans ssp. shinshuense infection.	Kondo Makoto	皮膚科
36	Br J Dermatol. 2010 Feb 15.	1, 24-Dihydroxyvitamin D(3) (tacalcitol) prevents skin T-cell infiltration.	Yamanaka Keiichi	皮膚科
37	Arch Dermatol Res. Epub 2010 Jan 29.	Restoration of peripheral blood T cell repertoire complexity during remission in advanced cutaneous T cell lymphoma.	Yamanaka Keiichi	皮膚科
38	J Allergy Clin Immunol. 2009 Oct;124(4):842-5. e7. Epub 2009 Aug 22.	Induction of IL-10-producing regulatory T cells with TCR diversity by epitope-specific immunotherapy in pollinosis.	Yamanaka Keiichi	皮膚科
39	Exp Dermatol. 2009 Aug;18(8):734-7. Epub 2009 Mar 16.	Pilomatricoma can differentiate not only towards hair matrix and hair cortex, but also follicular infundibulum, outer root sheath and hair bulge.	Kurokawa Ichiro	皮膚科
40	Br J Dermatol. 2009 Jun;160(6):1172-9.	IL-4/IL-13 antagonist DNA vaccination successfully suppresses Th2 type chronic dermatitis.	Morioka Tatsuhiko	皮膚科
41	J Dermatol Sci. 2009 Jul;55(1):47-52. Epub 2009 Apr 17.	Increased interferon-gamma, interleukin-12p40 and IL-8 production in Propionibacterium acnes-treated peripheral blood mononuclear cells from patient with acne vulgaris: host response but not bacterial species is the determinant factor of the disease.	Sugisaki Hitomi	皮膚科
42	Experimental Dermatology:18(10), 821-832, 2009	New developments in our understanding of acne pathogenesis and treatment	I. Kurokawa	皮膚科
43	皮膚の科学:8(2), 117-124, 2009	弱アルカリ性水道水電解水と他の手洗い洗浄による除菌効果の比較ならびに有効塩素濃度の安定性の検討	岩田大輔	皮膚科
44	皮膚の臨床:51(13), 2009	治療の違いにより異なる経過をたどった日本紅斑熱の2例 51(13);2009	近藤誠	皮膚科
45	うつる皮膚病最前線: 162-165, 2009	伝染性膿痂疹の局所治療をどうする	黒川一郎	皮膚科
46	アレルギーの臨床:29(9), 13, 2009	研究は97枚の失敗と3枚の成功パズル	水谷仁	皮膚科
47	皮膚病診療:31(8), 933-936, 2009	フタトゲチマダニ幼虫による多発刺咬	中井智絵	皮膚科
48	臨床外科:64(9), 1207-1212, 2009	褥瘡管理チームと外科	毛利靖彦	先進医療外科
49	Derma:153 22-28, 2009	乾癬・掌蹠膿疱症:ステロイドと他剤の使い分け	水谷仁	皮膚科
50	Helicobacter. 2009 Dec; 14(6): 552-8.	Reactive nitrogen species mediate DNA damage in Helicobacter pylori-infected gastric mucosa.	Katsurahara M	消化器・肝臓内科
51	J Gastroenterol Hepatol. 2009 Oct; 24(10): 1625-30.	Ease of early gastric cancer demarcation recognition: a comparison of four magnifying endoscopy methods.	Kadowaki S	消化器・肝臓内科
52	Vaccine. 2009 Nov16; 27(49): 6854-61.	Antibody responses against NY-ESO-1 and HER2 antigens in patients vaccinated with combinations of cholesteryl pullulan (CHP)-NY-ESO-1 and CHP-HER2 with OK-432.	Aoki M	消化器・肝臓内科

No.	雜誌名	題 命	発表者氏名	所 属 部 門
53	Helicobacter. 2009 Oct; 14(5): 86-90.	Annual change of primary resistance to clarithromycin among Helicobacter pylori isolates from 1996 through 2008 in Japan.	Horiki N	消化器・肝臓内科
54	Hepatol Res. 2009 Nov; 39(11): 1072-9.	Value of the extracellular water ratio for assessment of cirrhotic patients with and without ascites.	Hara N	消化器・肝臓内科
55	Clin Gastroenterol Hepatol. 2009 Dec; 7(12): e71.	Intraductal papillary neoplasm of bile duct detected on fluorodeoxyglucose-positron emission tomography performed for cancer scanning.	Inoue H	消化器・肝臓内科
56	J Viral Hepat. 2009 Oct; 16(10): 716-23.	Patients achieving clearance of HCV with interferon therapy recover from decreased retinol-binding protein 4 levels.	Iwasa M	消化器・肝臓内科
57	Helicobacter. 2009 Apr; 14(2): 147-55.	Presence of thrombin-activatable fibrinolysis inhibitor in Helicobacter pylori-associated gastroduodenal disease.	Ikeda A	消化器・肝臓内科
58	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2009 Oct;17(10):1195-8.	Changes to patellar blood flow after minimally invasive total knee arthroplasty.	Hasegawa M	整形外科
59	Int J Hematol. 2009 Jun;89(5):572-6.	Cut-off values of D-dimer and soluble fibrin for prediction of deep vein thrombosis after orthopaedic surgery.	Sudo A	整形外科
60	J Rheumatol. 2009 Feb;36(2):240-5. Epub 2009 Jan 22.	Thrombin-cleaved osteopontin in synovial fluid of subjects with rheumatoid arthritis.	Hasegawa M	整形外科
61	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2009 Mar;17(3):237-43.	Staged bilateral mobile-bearing and fixed-bearing total knee arthroplasty in the same patients: a prospective comparison of a posterior-stabilized prosthesis.	Hasegawa M	整形外科
62	Arch Orthop Trauma Surg. 2010 Jan 29.	Serum metal ion levels after second-generation metal-on-metal total hip arthroplasty.	Imanishi T	整形外科
63	AJR Am J Roentgenol. 2010 Feb;194(2):536-41.	Radiofrequency ablation for the treatment of bone metastases from hepatocellular carcinoma.	Kashima M	IVR科
64	AJR Am J Roentgenol. 2010 Feb;194(2):530-5.	Subphrenic versus nonsubphrenic hepatocellular carcinoma: combined therapy with chemoembolization and radiofrequency ablation.	Yamakado K	IVR科
65	Cardiovasc Intervent Radiol. 2010 Feb;33(1):161-3. Epub 2009 Aug 29.	Percutaneous transhepatic drainage of inaccessible abdominal abscesses following abdominal surgery under real-time CT-fluoroscopic guidance.	Yamakado K	IVR科
66	Oncol Rep. 2009 Oct;22(4):885-91.	Long-term results of radiofrequency ablation in colorectal lung metastases: single center experience.	Yamakado K	IVR科
67	AJR Am J Roentgenol. 2009 Jun;192(6):W300-5.	Adrenal metastasis from hepatocellular carcinoma: radiofrequency ablation combined with adrenal arterial chemoembolization in six patients.	Yamakado K	IVR科

No.	雑誌名	題 命	発表者氏名	所属部門
68	Cardiovasc Intervent Radiol. 2010 Apr;33(2):410-2. Epub 2009 May 5.	Massive hemoptysis from pulmonary artery pseudoaneurysm caused by lung radiofrequency ablation: successful treatment by coil embolization.	Yamakado K	IVR科
69	Hepatogastroenterology. 2009 Mar-Apr;56(90):407-10.	Stent placement for portal venous stenosis following major abdominal surgery.	Takaki H	IVR科
70	Vaccine. 2009年11月16日 (Vaccine. 2009;27(49):6854-61.)	Antibody responses against NY-ESO-1 and HER2 antigens in patients vaccinated with combinations of cholesteryl pullulan (CHP)-NY-ESO-1 and CHP-HER2 with OK-432.	影山慎一	腫瘍内科
71	Thromb Res. 2009年11月 (Thromb Res. 2009;124(5):541-5.)	Decreased ADAMTS13 levels in patients after living donor liver transplantation.	和田英夫	血液内科
72	J Gastroenterol Hepatol. 2009年10月 (J Gastroenterol Hepatol. 2009;24(10):1625-30.)	Ease of early gastric cancer demarcation recognition: a comparison of four magnifying endoscopy methods.	田中匡介	光学医療診療部
73	Mol Cell Biochem(2009.11)	Alternative Fas-mediated cell death pathway is dependent on the different cleavage patterns of procaspase-8.	駒田美弘	小児科
74	Circulation(2009.6)	In vivo plaque composition and morphology in coronary artery lesions in adolescents and young adults long after Kawasaki disease: a virtual histology-intravascular ultrasound study.	三谷義英	小児科
75	Pediatr Int(2009.8)	Quantitative detection of HCMV-DNA in saliva from infants and breast milk on real-time polymerase chain reaction.	駒田美弘	小児科
76	Pediatr Cardiol(2010.2)	Postnatal course of hypoplastic left heart complex and restrictive foramen ovale.	三谷義英	小児科
77	Circulation(2010.3)	Images in cardiovascular medicine. Dynamic right ventricular outflow tract obstruction due to a swinging echolucent cyst on interventricular septum in a 4-year-old girl.	三谷義英	小児科
78	医学のあゆみ(0039-2359) 229巻13号 Page1195-1199(2009.06)	「炎症性腸疾患 病態、診断、治療の最新知見」炎症性腸疾患の外科治療最近の進歩	吉山繁幸	消化管・小児外科
79	Cancer 2009. aug	Lung radio frequency ablation in patients with pulmonary metastases from musculoskeletal sarcomas	T.Nakamura	整形外科
80	J. Neurol. 256:1455-1460. 2009	Agraphia in intellectually normal Japanese patients with ALS: mission of kana letters	M. Satoh	認知症医療学講座
81	J. Neurol (2009.8月)	Painful neck on rotation; diagnostic significance for crowned dens syndrome	Akira Taniguchi	神経内科
82	Clinical Neuroscience 27(1) 2009.	脊髄小脳変性症 歩行解析	内藤寛	神経内科
83	日本臨床67. 2009	脳炎後パーキンソンニズム	内藤寛	神経内科
84	Neurology. 2010 Jan 5;74(1):86-9.	Discordant clinicopathologic phenotypes in a Japanese kindred of fatal familial insomnia.	Naito Y	神経内科
85	臨床神経学 50:34-36, 2010	がん診療連携拠点病院等における緩和ケア研修会への神経内科医の参加について	成田有吾	神経内科
86	三重看護学誌 12:49-52, 2010	虐待事例に気づき、対処するために -地域支援者からの調査-	成田有吾	神経内科

No.	雑誌名	題 命	発表者氏名	所 属 部 門
87	手術(2009.9)	[最新乳房腫瘍の手技・手術のすべて] 切除 乳房温存術 欠損部充填と術前デザイン	小川朋子	乳腺センター
88	乳癌の臨床(2009.8)	乳腺紡錘細胞癌の例	花村典子	乳腺センター
89	がん看護(2009.5)	乳がんの最新トピック手術療法	小川朋子	乳腺センター
90	Risk Management and Healthcare Policy 2010.3 13-20	Postmortem computed tomography is an informative approach for prevention of sudden unexpected natural death in the elderly	Kaneko Toshihiro	医療安全感染管理部
91	泌尿器外科 22(7): 859- 865 (2009)	特集 泌尿器腫瘍に対する focal therapy(部分治療)のupdate 副腎 focal therapy	有馬公伸	腎泌尿器外科
92	Recent Advances in Endourology 11:131- 136(2009)	Complications of Radiofrequency Ablation and Cryoablation for small RCC	Kiminobu Arima	腎泌尿器外科
93	BJU International 104(6):790-794 (2009)	Percutaneous radiofrequency ablation for unresectable pulmonary metastases from renal cell carcinoma	Norihito Soga	腎泌尿器外科
94	Circ J	Vegetation with ventricular defect detected by cardiacwagnetic	Ito M	循環器内科
95	Circ J	Unique myo cardial fibrosis pattern by late gadoliuium enhanced magnetic resonauce imaging ina a patient	Ito M	循環器内科
96	Circ J	Cardiac MRI in ischemic heart disease	Sakuma H	放射線診断科
97	Magn Reson Imaging	Quantitative assessment of regional systolic and diastolic functions and temporal heterogeneity of myocardial contraction in patients with myocardial infarction using cine magnetic resonance imaging and Fourier fitting.	Sakuma H	放射線診断科
98	日本磁気共鳴医学誌 2010年2月	3T:3DTIWZによる頸動脈のプラークの評価	井上勝博	中央放射線部
99	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2010 Mar;17(2) 197-202	Total vascular hepatic exclusion for tumor resection: a new approach to the intrathoracic inferior vena cava through the abdominal cavity by cutting the diaphragm vertically without cutting the pericardium.	Mizuno S	肝胆膵外科
100	Transplantation. 2010 Mar 27;89(6):650-4.	Prospective study on the outcome of patients with hepatocellular carcinoma registered for living donor liver transplantation: how long can they wait?	Mizuno S	肝胆膵外科
101	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2010 Mar;17(1)79-86.	Development of nonalcoholic fatty liver disease(NAFLD) and nonalcoholic steatohepatitis(NASH) after pancreaticoduodenectomy: porposal of a postoperative NAFLD scoring system.	Kato H	肝胆膵外科
102	J Hepatobiliary Pancreat Surg. 2009;16(4):513- 20.	Tissue factor expression demonstrates severs sinusoidal endothelial cell damage during rejection after living- donor liver transplantation.	Usui M	肝胆膵外科
103	Br J Radiol. 2009 Nov;82(983):e225-7	Intractable bronchopleural fistula caused by radiofrequency ablation: endoscopic bronchial occlusion with silicone embolic material.	Kodama H	IVR科

No.	雑誌名	題 命	発表者氏名	所 属 部 門
104	Am J Med Genet Part B Neuropsychiatric Genetics	TRPM7 is not associated with amyotrophic lateral sclerosis-parkinsonism dementia complex in the Kii peninsula of Japan	Yasumasa Kokubo	神経内科
105	Eur Neurol 2009;61:50-51	Anti-N-methyl-D-aspartate receptor-related grave but reversible encephalitis with ovarian teratoma in two Japanese women presenting with excellent recovery without tumor resection	Yasumasa Kokubo	神経内科
106	The Neurologist 2009 Jul;15(4):220-2	Juvenile Muscular Atrophy of the Distal Upper Extremity(Hirayama Disease)in Two Lanky Look-Alike Brothers	Yasumasa Kokubo	神経内科
107	Neuroreport. 20(11):990-996, 2009	Cortical microinfarcts in Alzheimer's disease and subcortical vascular dementia.	Tomimoto H	神経内科
108	Brain Research. 1294:202-210, 2009.	Chronic cerebral hypoperfusion accelerates amyloid beta deposition in APPwInd transgenic mice.	Tomimoto H	神経内科
109	Nat Neurosci. 12:1506-1513, 2009.	Nardilysin regulates axonal maturation and myelination in the central and peripheral nervous system.	Tomimoto H	神経内科
110	Ann Surg Oncol. 2010 Mar;17(3):821-8.	KAP1 is associated with peritoneal carcinomatosis in gastric cancer.	横江毅	消化管外科
111	Int J Oncol. 2009 Oct;35(4):709-15.	Overexpression of the signal peptide whirlin isoform 2 is related to disease progression in colorectal cancer patients.	問山裕二	消化管外科
112	Oncol Rep. 2009 Oct;22(4):901-6.	Microdissection is essential for gene expression analysis of irradiated rectal cancer tissues.	井上靖浩	消化管外科
113	Oncol Rep. 2009 Oct;22(4):709-17.	Elevated CD133, but not VEGF or EGFR, as a predictive marker of distant recurrence after preoperative chemoradiotherapy in rectal cancer.	安田裕美	消化管外科
114	Ann Surg Oncol. 2009Dec;16(12):3488-98.	Correlation of CD133, OCT4, and SOX2 in rectal cancer and their association with distant recurrence after chemoradiotherapy.	三枝晋	消化管外科
115	Dis Colon Rectum. 2009 Jul;52(7):1330-6.	Serum level of soluble vascular cell adhesion molecule 1 is a valuable prognostic marker in colorectal carcinoma.	奥川喜永	消化管外科
116	Int J Cancer. 2009 Oct 1;125(7):1657-62.	Serum hepatocyte growth factor as a prognostic marker for stage II or III colorectal cancer patients.	問山裕二	消化管外科
117	Oncol Rep. 2009 Jun;21(6):1489-94.	Clinical significance of the gene expression profile in residual tumor cells after neoadjuvant chemoradiotherapy for esophageal cancer.	田中光司	消化管外科
118	Pediatr Surg Int. 2009 Sep;25(9):827-31.	Congenital diaphragmatic hernia with a pure duplication of chromosome 1q: report of the first surviving case.	大竹耕平	小児外科
119	Eur J Pediatr Surg. 2010 Mar;20(2):121-3.	Wandering spleen causing intestinal obstruction after repair of congenital diaphragmatic hernia.	安田裕美	消化管外科
120	Pediatr Surg Int. 2009 Jul;25(7):655-8.	Ovarian autoamputation in a neonate: a case report with literature review.	小池勇樹	小児外科



No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
121	World J Surg. 2010 Feb;34(2):285-90.	Prognostic significance of host- and tumor-related factors in patients with gastric cancer.	毛利靖彦	先進医療外科
122	Br J Cancer. 2009 Jul 21;101(2):295-302.	Identification of macrophage migration inhibitory factor and human neutrophil peptides 1-3 as potential biomarkers for gastric cancer.	毛利靖彦	先進医療外科

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 竹田 寛
管理担当者氏名	中央放射線部長 佐久間 肇      薬剤部長      奥田 真弘 医療安全・感染管理部長 竹井 謙之 医療福祉支援センター長 内田 恵一      臨床工学部長      伊佐地秀司 総務課長 臼井 清      医療サービス課長 北山 繁樹

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌, 各科診療日誌, 処方せん, 手術記録, 看護記録, 検査所見記録, エックス線写真, 紹介状, 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院治療計画書	各診療科	カルテは、 外来:一患者各診療科カルテ 入院:一患者共通カルテ方式をとっている。 カルテは、 ①外来患者は外来カルテ庫 ②入院患者は入院中は各科病棟、退院後は病歴室に保管。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者を明らかにする帳簿	総務課
	高度医療の提供の実績	医療サービス課
	高度医療技術の開発及び評価の実績	医療サービス課
	高度医療の研修の実績	総務課
	閲覧実績	総務課
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課、薬剤部
	規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療サービス課、安全管理・感染管理部
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	総務課、医療サービス課、医療安全・感染管理部
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	総務課、医療サービス課、医療安全・感染管理部
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療サービス課、医療安全・感染管理部
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療サービス課、医療安全・感染管理部
専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療サービス課、医療安全・感染管理部	
当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課、医療福祉支援センター	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の1第1項各号及び第9条の2第1項第1号に掲げる体制の確保状況		
	院内感染のための指針の策定状況	総務課	
	院内感染のための委員会の開催状況	総務課	
	従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	総務課	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課	
	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	総務課	
	従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	総務課 薬剤部	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務課	
	従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	総務課 臨床工学部	
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経営管理課 臨床工学部	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療の提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 竹田 寛
閲覧担当者氏名	総務課長 臼井 清
閲覧の求めに応じる場所	医学部応接室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療の提供の実績

紹介率	73.3%	算定期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日
算出根拠	A : 紹介患者の数	10,174人	
	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	7,347人	
	C : 救急用自動車によって搬入された患者の数	327人	
	D : 初診の患者の数	16,987人	

(注) 1 「紹介率」欄はA、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dはそれぞれの延べ数を記入すること。

## 規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・指針の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医療に係る安全管理のための指針(別添資料 1)</li> <li>○安全管理に係る組織図(別添資料 2)</li> <li>○医療問題対策委員会内規(別添資料 3)</li> <li>○安全管理部内規(別添資料 4)、</li> <li>○重大インシデント発生時の院内連絡体制(別添資料 5)</li> <li>○医療の質・倫理検討委員会内規(別紙資料 6)</li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 39 回
<p>・活動の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医療問題対策委員会 (年 9回) 医療法制に関する事項、医療事故の予防に関する事項、医療事故発生時の対策に関する事項、医療紛争の処理に関する事項及び医療訴訟に関する事項の審議を行う。</li> <li>○安全管理部会議 (年 11回) インシデントレポートの収集と管理、報告された事故の原因や状況の分析、原因分析の結果を踏まえて事故発生の防止策と事故発生後の対応策を講じ、必要な情報を現場のスタッフにフィードバックする。 また、医療事故防止に係る病院内の巡視・点検・評価に関すること、医療事故防止にかかわる業務改善の提言・指導に関すること、安全管理に係わる教育・研修・啓発に関すること、医療事故防止対策マニュアルに関すること、ヒヤリハットニュースの発行に関すること、リスクマネージャー会議に関すること。</li> <li>○リスクマネージャー会議 (年 7回) 医療問題対策委員会及び安全管理室会議において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底させ</li> <li>○医療の質・倫理検討委員会 (年 12回) 死亡例及び重症合併症例の検討、先端医療、終末期医療、診療拒否、移植医療、その他の倫理的問題について審議する。</li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
<p>・研修の主な内容</p> <p>従業員が医療安全に関する意識向上を図っている。 (全職員対象とは別に新規採用者のみを対象とした医療安全研修会及び全職員を対象とした医療事故被害者による講演等)</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ヒヤリハットニュースを発行(月1回及び必要に応じて随時)し、リスクマネージャー会議を開催(年6回)することにより、リスクマネージャーを通じて、インシデントレポートから積極的に収集した情報並びに医療問題対策委員会、医療の質・倫理検討委員会及び安全管理部会議において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底する。</li> <li>○各医療現場のリスクマネージャーにより、医療事故の原因及び防止方法並びに医療体制の改善方法について独自に検討及び提言を行う。</li> <li>○各医療現場のリスクマネージャーにより、独自に事故防止のための研修会及び勉強会を開き、医療事故防止のための啓蒙活動を行う。</li> </ul>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有( 3名) <input type="checkbox"/> 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有( 2名) <input type="checkbox"/> 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・所属職員: 専任( 3 )名 兼任( 11 )名</p> <p>・活動の主な内容</p> <p>医療安全・感染管理部(危機管理委員会として平成12年6月12日設置、平成13年6月19日安全管理委員会に委員会名変更、平成14年4月1日同委員会を廃止し、安全管理室を設置、平成19年1月1日安全管理部に改組、平成22年4月1日同部を廃止し、感染制御部と合併し、医療安全・感染管理部に改組) 病院内における医療事故の防止及び医療の安全性の確保のため、安全且つ適切な医療体制を確立する。</p>	
⑧ 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

院内感染のための体制の確保に係る措置

① 院内感染のための指針の策定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
・指針の主な内容 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 委員会等の組織に関する基本的事項 3. 職員研修に関する基本方針 4. 発生状況の報告に関する基本方針 5. 感染発生対応に関する基本方針 6. 指針の閲覧に関する基本方針 7. その他の必要な基本方針	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 11 回
・活動の主な内容 1. 院内感染の実態の把握、薬剤耐性の動向その他院内感染のための調査、研究を行う。 2. 感染症患者及び健康保菌者等の取扱い、滅菌及び消毒、清潔区域及び医療材料の清潔保持その他院内感染防止のための予防対策を行う。 3. 院内感染防止についての指針の作成及び職員の教育、指導を行う。	
③ 従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	年 2 回
・研修の主な内容  従業者の感染管理に関する知識向上を図っている。(院内感染対策、職員手帳、HIV感染症 等)	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	
・病院における発生状況の報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
・その他の改善のための方策の主な内容  地域の感染対策強化を図るために、感染対策セミナーを行っている。(月1回程度)	

## 医薬品の使用に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 ・活動の主な内容 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書について 麻薬の取扱いについて	年 2 回 (同一内容で複数回実施)
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 ・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・業務の主な内容 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項(麻薬等の管理方法等) 3. 患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法 4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 5. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 6. 他施設(病院等、薬局等)との関係に関する事項	年 1 回
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 ・医薬品に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容 【収集方法】 医薬品に係る添付文書等の収集、メーカー等から収集、インターネット、文献等からの収集 【周知方法等】 薬剤部発行の院内医薬品情報誌に掲載し周知、オンライン医薬品集に「お知らせ」として掲載し周知、 薬剤部ホームページへの掲載、必要に応じて院内メール又は文書等の通知にて周知、病棟担当薬剤師 がカンファレンス等にて説明し周知 【改善方法等】 業務実施状況を確認し、必要に応じて手順書の改定を行う	

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無						
② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回						
<p>・活動の主な内容</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 有効性、安全性に関する事項</td> <td>2. 使用方法に関する事項</td> </tr> <tr> <td>3. 保守点検に関する事項</td> <td>4. 不具合が発生した場合の対応に関する事項</td> </tr> <tr> <td>5. 使用に関して特に法令上遵守すべき事項</td> <td></td> </tr> </table>		1. 有効性、安全性に関する事項	2. 使用方法に関する事項	3. 保守点検に関する事項	4. 不具合が発生した場合の対応に関する事項	5. 使用に関して特に法令上遵守すべき事項	
1. 有効性、安全性に関する事項	2. 使用方法に関する事項						
3. 保守点検に関する事項	4. 不具合が発生した場合の対応に関する事項						
5. 使用に関して特に法令上遵守すべき事項							
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	年 回						
<p>・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・保守点検の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. メーカー提供の点検マニュアル及びメーカー指示に従い実施</li> <li>2. 日常点検を実施し、異常があればメーカー点検・修理</li> </ol>							
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況							
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 装置毎に添付文書・保守点検マニュアル及び安全性情報を冊子として配布</li> <li>2. 管理、機器に関わる者に関してはWG等を設置し周知徹底を行う</li> <li>3. 医薬品医療機器総合機構への病院ホームページ及びME室ホームページからのリンク</li> <li>4. ME室ホームページからのマニュアル等の閲覧システム</li> <li>5. 年4回発行のME室新聞及び看護師と連携した医療機器中央管理委員会(年6回開催)にて周知</li> </ol>							



## 三重大学医学部附属病院医療に係る安全管理のための指針

### 1) 安全管理に関する基本的な考え方

安心できる医療環境のもとで良質で高度な医療を適切に提供することは三重大学医学部附属病院の理念であり、その根幹をなすものは「安全性」の確保である。未然に事故を防止することは医療機関の責務であり、特定機能病院には一般病院以上に安全管理体制の整備・充実が求められている。

このために、安全管理に関する院内の責任体制を明確にし、「良質で高度な医療の提供」に際して求められる安全確保のための指針を制定する。

### 2) 安全管理のための委員会、その他医療機関内の組織に関する基本的事項

1. 医療に係る安全管理体制の最高決定機関として安全管理に関わる部門の責任者等で構成する三重大学医学部附属病院医療問題対策委員会（以下「医療問題対策委員会」という。）を置き、病院長を委員長とし委員で構成する委員会を月1回以上開催する。  
医療問題対策委員会に関し必要な事項は、三重大学医学部附属病院医療問題対策委員会内規に定める。
2. 安全管理推進の確保のため、ゼネラルリスクマネージャー及びその他各部門の安全管理責任者等で構成する三重大学医学部附属病院安全管理部（以下「安全管理部」という。）を置く。部員で構成する安全管理部会議を月2回以上開催する。  
安全管理部に関し必要な事項は、三重大学医学部附属病院安全管理部内規に定める。
3. 医療に係る安全管理を専任で行う者としてゼネラルリスクマネージャーを置く。  
ゼネラルリスクマネージャーの業務等については、三重大学医学部附属病院安全管理部内規に定める。
4. 医療現場での事故防止、安全管理の中心的な役割を担う者として、院内各部門にリスクマネージャーを置く。
5. 医療の現場で具体的な安全対策を推進し、安全性の高い医療を提供するために安全管理部の下にリスクマネージャー会議を定期的で開催する。  
リスクマネージャー会議に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院安全管理部内規に定める。
6. 医薬品の安全使用のための責任者として、医薬品安全管理責任者を配置する。
7. 医療機器の安全使用のための責任者として、医療機器安全管理責任者を配置する。
8. その他本院における医療に係る安全管理体制に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院安全管理部内規に定める。

### 3) 安全管理のための職員研修に関する基本方針

1. 医療の安全管理のための職員研修（以下「研修」という。）は全職員を対象として年2回以上開催する。必要に応じ医療に係る安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について職員に周知徹底を行うことで個々の職員の安全に対する意識、安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識向上を図る。
2. 研修参加者の学習達成の評価とともに具体的・現実的な目標を定め、目標達成の観点から評価する。
3. 研修の実施内容や参加状況を記録に残し、それらの記録の積み重ねから研修の質的充実を図る。
4. その他研修に関し必要な事項は、安全管理部で定める。

#### 4) 医療機関内における事故報告書等の医療に係る安全確保のための改善策に関する基本方針

安全管理部は、あらかじめ定められた手順により報告されたインシデントや医療事故及び他機関での医療の安全管理に関する事例の収集・分析に基づき、医療の安全管理の問題点を把握し病院全体の医療の安全管理や改善策の具体的な実践を指導監督するとともに、その実施状況を評価する。

#### 5) 医療事故等発生への対応に関する基本方針

1. 本院において医療事故が発生した場合、当事者は必要と考えられる医療上の最善の処置を講じ、患者様及び御家族等に誠実で適切な対応をするとともに、あらかじめ定められた手順により速やかに病院長に報告しなければならない。
2. 安全管理部会議で医療事故と判定された場合の報告は、診療録や看護記録に基づき作成するものとする。
3. 医療事故等発生時の報告・対応に関し必要な事項は別に定める。

#### 6) 患者等に対する当該方針の閲覧に関する基本方針

患者等が指針の閲覧を希望する場合は、閲覧に供する。

#### 7) 患者からの相談への対応に関する指針

患者等から苦情、相談に適切に応じる体制を確保するため三重大学医学部附属病院 医療福祉支援センター（以下「支援センター」という。）を設置し、その活動を本院の安全対策等の見直しに活用するものとする。支援センターの活動の趣旨、設置場所、担当者及びその責任者、対応時間等については、院内に明示し周知を図る。

その他、支援センターの設置に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院医療福祉支援センター規程に定める。

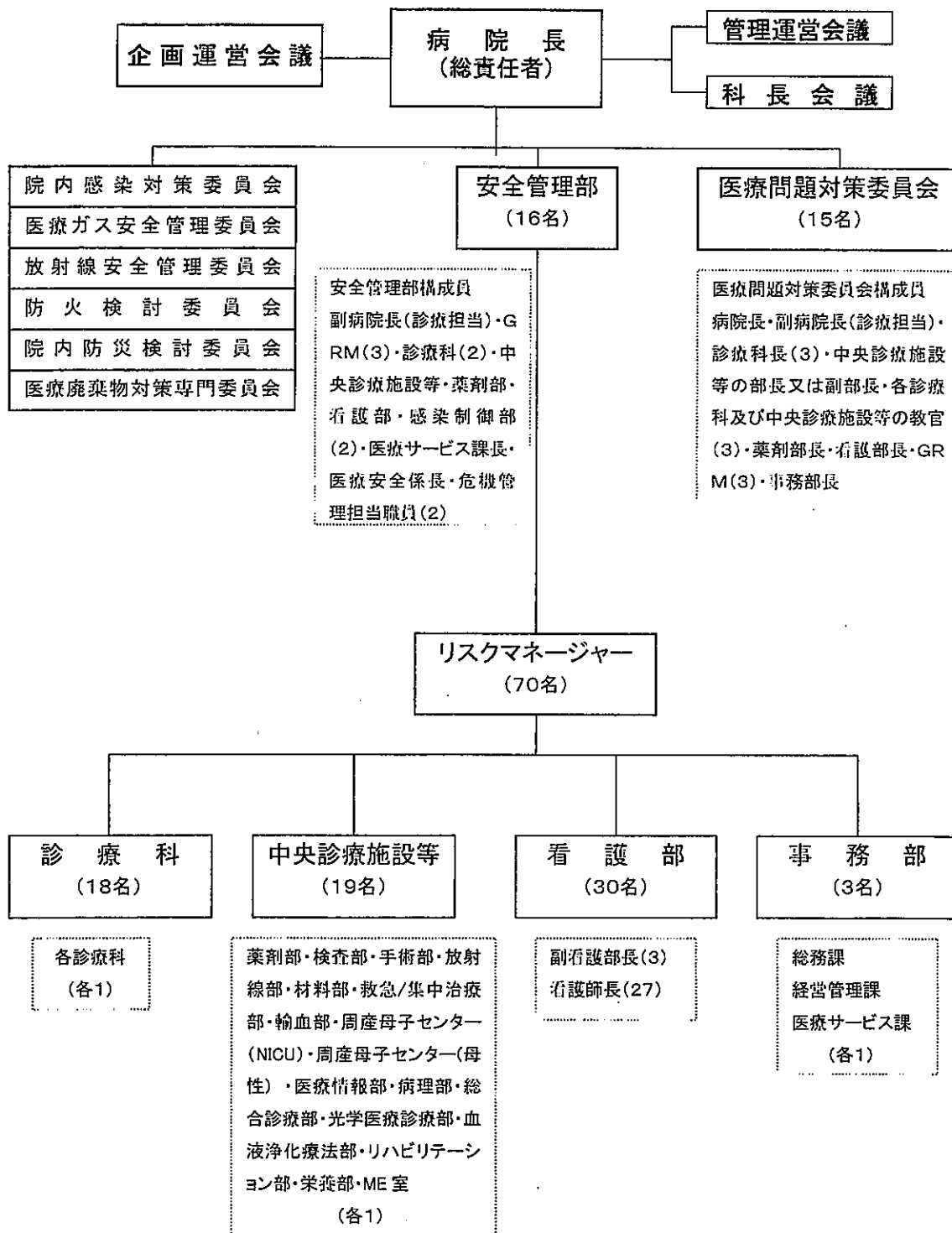
#### 8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針

1. 安全管理部は各診療科等に共通するリスクマネジメントマニュアル（以下「マニュアル」という。）を、また、各診療科等はそれぞれの部門に特化したマニュアルを作成し、関係職員に周知して医療事故等の防止を図るものとする。作成したマニュアルは常に見直しを行い随時改善するものとする。
2. 医療の安全に関する広報紙の発行等により医療従事者に速やかに医療の安全に関する情報を提供する。
3. 医療従事者の医療安全に関する意識向上を図るため、医療事故防止のためのポスターや標語を募集し、これらを院内に掲示することにより医療安全に関する患者等の理解の促進を図る。

2004年2月制定  
2007年10月改訂  
(医療問題対策委員会)

## 安全管理に係る組織図

(リスクマネージャーの配置状況等)



\*三重大学医学部附属病院安全管理部及び医療問題対策委員会の内規は【巻末附(1)及び(2)参照】

三重大学医学部附属病院医療問題対策委員会内規

第1条 三重大学医学部附属病院（以下「病院」という。）は病院における医療事故の予防及び発生時の対応並びに医事紛争の処理に関し、常時、適切、かつ十分な行為を遂行していなければならない。

第2条 病院に医療問題対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 病院長
- 二 副病院長（診療・病院機能評価担当）
- 三 診療科長のうちから 3名
- 四 中央診療施設等の部長又は副部長のうちから 1名
- 五 各診療科及び中央診療施設等の大学教員から推薦された者 3名
- 六 薬剤部長
- 七 看護部長
- 八 ゼネラルリスクマネージャー
- 九 事務部長
- 十 その他病院長が必要と認めた者

2 前項第3号、第4号及び第5号の委員は、病院長が任命する。

3 第1項第3号、第4号及び第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 医事法制に関する事項
- 二 医療事故の予防に関する事項
- 三 医療事故発生時の対策に関する事項
- 四 医事紛争の処理に関する事項
- 五 医療訴訟に関する事項
- 六 その他必要と認めた事項

第5条 委員会に委員長を置き、病院長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

第7条 委員会は、必要に応じて特別委員会を設置することができる。特別委員会の構成等については、その都度委員会において定める。

第8条 委員会の庶務は、病院事務部医療サービス課において行う。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成21年4月22日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

## 三重大学医学部附属病院安全管理部規程

第1条 この規程は、三重大学医学部附属病院規程第15条第6項の規定に基づき、三重大学医学部附属病院安全管理部（以下「安全管理部」という。）の組織及び業務について必要な事項を定める。

（目的）

第2条 安全管理部は、高度医療を提供する大学附属病院に求められている医療事故の防止及び医療の安全性の確保のため、病院長のもとに強い実行力を発揮し、安全かつ適切な医療体制を確立することを目的とする。

（業務）

第3条 安全管理部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 「ヒヤリ・ハット報告書」の収集・調査・防止対策及び防止対策の周知徹底に関すること。
- 二 医療事故防止・安全管理に係わる病院内の巡視・点検・評価に関すること。
- 三 医療事故防止・安全管理に係わる業務改善の提言・指導に関すること。
- 四 安全管理に係わる教育・研修・啓発に関すること。
- 五 医療事故防止対策マニュアルに関すること。
- 六 リスクマネージャー会議に関すること。
- 七 その他医療の安全管理に関すること。

（職員）

第4条 安全管理部に、次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 部長
- 二 副部長
- 三 ゼネラルリスクマネージャー 2名
- 四 感染制御部の副部長及び看護師長
- 五 診療科から推薦された者 1名
- 六 中央診療施設等から推薦された者（医療情報管理部及び感染制御部を除く） 2名
- 七 医療情報管理部から推薦された者 1名
- 八 薬剤部から推薦された者 1名
- 九 看護部から推薦された者 1名
- 十 医療サービス課長
- 十一 事務系の職員 若干名
- 十二 その他病院長が必要と認めた者 若干名

（任期）

第5条 前条第5号から第9号及び第12条の職員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、職員に欠員が生じた場合の補欠の職員の任期は、前任者の残任期間とする。

（ゼネラルリスクマネージャー）

第6条 ゼネラルリスクマネージャーは、医師及び看護師長及び薬剤師をもって充てる。

2 ゼネラルリスクマネージャーは、安全管理部専任とする。

(リスクマネージャー会議)

第7条 安全管理部のもとにリスクマネージャー会議を置く。

2 リスクマネージャー会議は、部長が招集し、その議長となる。

3 リスクマネージャー会議は、ゼネラルリスクマネージャー及び次のリスクマネージャーをもって構成する。

一 各診療科から推薦された者 各1名

二 薬剤部、中央検査部、中央手術部、臨床麻酔部、中央放射線部、中央材料部、救急部、輸血部、周産母子センター(母性)、周産母子センター(NICU)、集中治療部、医療情報管理部、病理部、総合診療部、光学医療診療部、血液浄化療法部、リハビリテーション部、栄養管理部及び臨床工学部から推薦された者 各1名

三 副看護部長

四 看護師長

五 総務課、経営管理課及び医療サービス課より 各1名

4 リスクマネージャーは、次の各号に掲げる業務を行う。

一 「ヒヤリ・ハット報告」の積極的な収集並びに医療問題対策委員会及び安全管理部において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底する。

二 各医療現場において、医療事故の原因及び防止方法並びに医療体制の改善方法について、独自に検討及び提言する。

三 各医療現場において、独自に事故防止のための研修会及び勉強会を開き、医療事故防止のための啓蒙活動を行う。

四 その他医療事故の防止に関すること。

5 第3項に規定するリスクマネージャーは、病院長が任命する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、安全管理部に關し必要な事項は、別に定める。

附 則

1. この規程は、平成19年1月1日から施行する。

2. 三重大学医学部附属病院安全管理室内規(平成16年4月1日制定)は廃止する。

3. この規程の施行の際現に廃止前の三重大学医学部附属病院安全管理室内規(平成16年4月1日制定)第4条第3号から第8号までの職員である者は、この規程の第4条第4号から第9号までの職員とみなし、その任期は、第5条の規定にかかわらず、従前の残任期間とする。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年5月2日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成19年12月5日から施行し、平成19年11月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成20年8月1日から施行する。

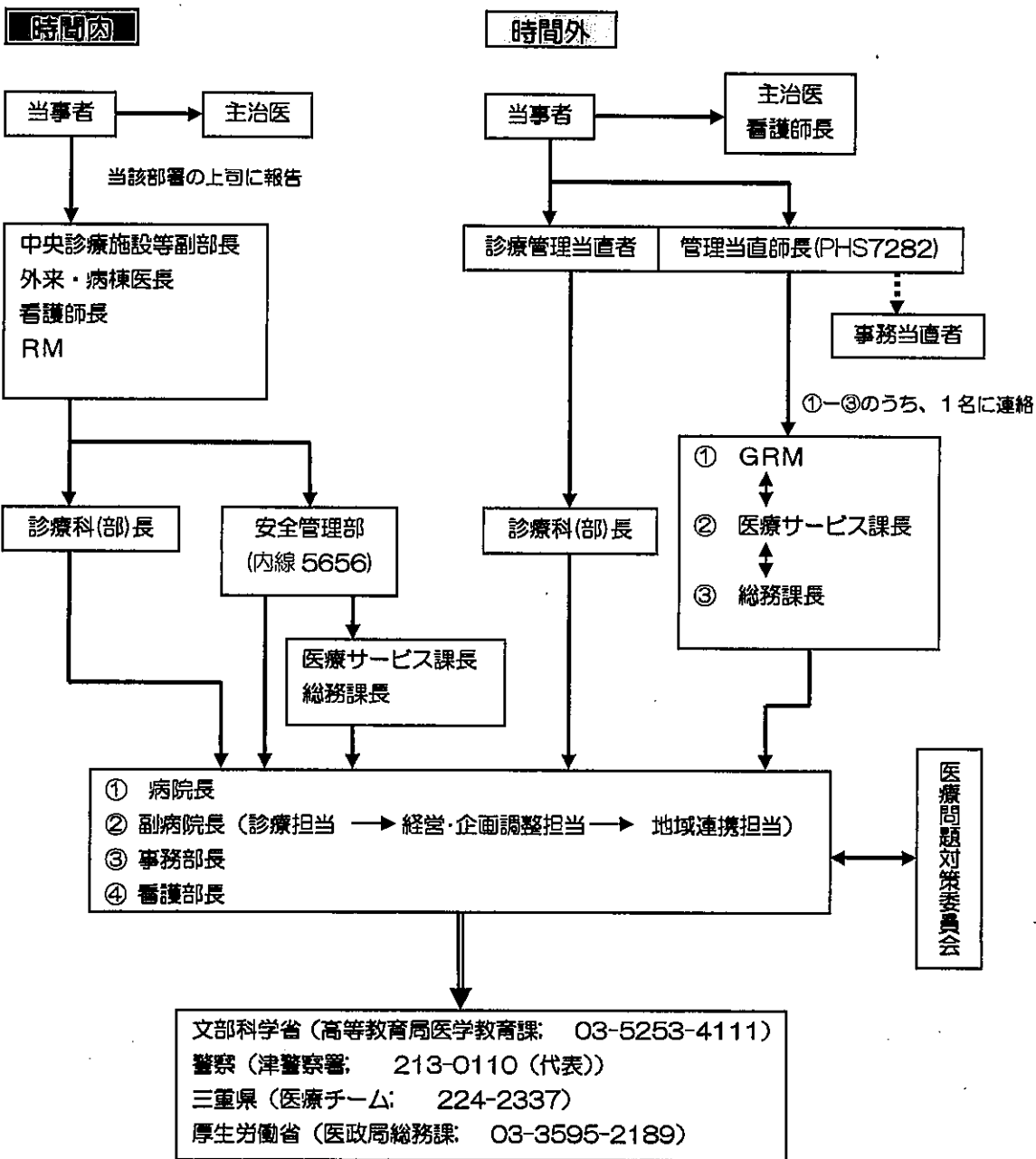
附 則

この規程は、平成21年1月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月22日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

重大インシデントが発生した場合は患者様への対応を最優先し、下記の連絡体制により、口頭で直ちに報告すること。ヒヤリ・ハットレポートは現場が落ち着いてからの提出でよい。



====> 外部への連絡・報告については次項参照のこと。

.....> 事務当直への連絡内容は管理当直師長日誌の記載事項とする。



## 三重大学医学部附属病院医療の質・倫理検討委員会規程

## (設置)

第1条 三重大学医学部附属病院に、三重大学医学部附属病院医療の質・倫理検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 死亡例及び重症合併症例の検討等診療の質に関する事。
- 二 先端医療、終末期医療及び治療拒否における倫理的問題に関する事。
- 三 移植医療における倫理的問題に関する事。
- 四 その他診療における倫理的問題に関する事。

## (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 病院長
  - 二 副病院長
  - 三 病理部長
  - 四 薬剤部長
  - 五 看護部長
  - 六 副看護部長 1名
  - 七 診療科（精神科神経科を除く。）の常勤医師 2名
  - 八 精神科神経科及び臨床麻酔部の常勤医師 各1名
  - 九 安全管理部のゼネラルリスクマネージャー
  - 十 医療福祉支援センターの医療ソーシャルワーカー
  - 十一 三重大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会の委員長
  - 十二 事務部長
  - 十三 医療サービス課長
  - 十四 倫理・法律分野の有識者 若干名
  - 十五 その他委員会が必要と認めたる者
- 2 前項第14号の委員は、学外者又は三重大学大学院医学系研究科、医学部及び医学部附属病院 以外の部局に属する者とする。
- 3 第1項第7号、第8号、第14号及び第15号の委員は、病院長が任命又は委嘱する。

## (任期)

第4条 前条第1項第7号、第8号、第14号及び第15号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長及び開催)

第5条 委員会に委員長を置き、病院長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
- 4 委員会は、原則として毎月1回開催する。ただし、委員長が必要と認めるときは、臨時に委員会を招集することができる。

## (申請手続)

第6条 第2条各2号から第4号に掲げる事項の審査を希望する者（以下「申請者」と

いう。)は、倫理審査申請書に必要事項を記入し、関係書類を添えて、所属の診療科長又は中央診療施設等の部長(以下「所属長」という。)を経て病院長に提出しなければならない。

(会議)

第7条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。ただし、特に重要な事項については、3分の2以上の出席を必要とする。

2 委員会の議事は、出席委員全員の合意によるものとする。

3 第1項及び前項の規定にかかわらず、委員が審査対象となる事項の申請者又は所属長であるときは、当該事項に係る審査に参加することができない。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見又は説明を聴くことができる。

(審査結果の通知)

第9条 病院長は審査結果を審査結果通知書により申請者に通知するものとする。

(実施状況の報告)

第10条 申請者は、前条の通知に基づき実施した内容について、実施状況報告書(別紙様式3)により所属長を経て病院長に報告しなければならない。

(庶務)

第11条 委員会の庶務は、医療サービス課において処理する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成18年10月4日から施行する。

2 この規程の施行後最初に任命又は委嘱される第3条第1項第7号、第13号及び第14号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成19年1月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成19年5月2日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

2 この規程施行の際現に改正前の第3条第1項第7号の委員である者は、この規程の第3条第1項第7号及び第8号の委員とみなし、その任期は、第4条の規定にかかわらず、従前の残任期間とする。

附 則

この規程は、平成21年4月22日から施行し、平成21年4月1日から適用する。